

# キャンプ de トライ！（ボランティア自主企画事業）

## 1. 事業の概要

### ○ 事業の趣旨

ひとりでは出来ないことや初めてのことに挑戦することで、自ら行動し何事にも前向きに取り組みようとする主体性を養う。

### ○ 実施期間

平成30年8月14日（火）～平成30年8月18日（土）4泊5日

### ○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学4～6年生 （20名／20）名

### ○ 活動プログラム

	8月14日（火）	8月15日（水）	8月16日（木）	8月17日（金）	8月18日（土）
午前		竹きり、細工 流しそうめん大会	海水浴	シーカヤック	テント撤収 思い出を語ろう
午後	受付・開講式 テント設営	水鉄砲づくり 水鉄砲合戦	（白浜海水浴場）	食材買出し 野外炊事	閉講式 （送迎バス）
夜	ナイトハイク テント泊	野外炊事 テント泊	BBQ テント泊	キャンプファイア テント泊	

○

## 2. 活動の様子

### <1日目>

開講式を行った後、テント設営を行った。テント生活班ごとに相談をして、自分たちの生活する動線を考えながら設営場所を決め、協力してテントを設営した。夕食後は施設内外に設定されたミッションポイントを巡るウォークラリーを行った。活動班での最初の活動となるため、チームビルドを目的とした内容設定であった。暗闇の中、星明りとライトを頼りに仲間と声を掛け合いながら様々なミッションに挑むことでチームの絆を深めていった。



### < 2日目 >

竹細工・竹工作の一日となった。午前中は昼食のために一生懸命に作業をした。竹の節を削り落とし、足をつくり、流しそうめんの仕掛けづくりを行った。自分たちで組み上げた竹樋で食べる流しそうめんは格別の味だった。竹工作にも慣れた午後の活動は水鉄砲作り。上手く水が飛び出るように微調整を重ねた後は、竹筒に思い思いのペインティングを行った。完成した水鉄砲を使った水鉄砲大会では的当てやチーム対抗合戦で全身ずぶ濡れになりながら暑い夏の日差しを楽しんだ。



### < 3日目 >

子供たちが一番楽しみにしていた海水浴。前夜からの悪天候で実施が危ぶまれたが、現地に到着した時には雷雲も消え、日差しこそないものの快適な気候となり、蒸し暑さで火照った体を海水が心地よく包む。ライフジャケットを装着し、バディシステムを遵守した子供たちの



の周りをボランティアリーダーがガードする安全管理体制の中、次々と沖から押し寄せる巨大なうねりに体を預けながら魚になったように泳ぎ回る活動となった。



自然の家へ戻ると夕食のためのピザ作りを行った。協力しながら生地を捏ね、自分好みのトッピングを載せる。生地の厚さや大きさ、形も一人一人が工夫を凝らして自分だけのオリジナルピザを焼きあげた。



### < 4日目 >

シーカヤックの活動からスタート。これまで過ごした3日間の活動で、仲間同士のチームワークもバッチリ。3人組でカヤックに乗り込むと、すぐに息をぴったりと合わせて漕ぎだすことができた。アメンボのように水面を自由自在に漕ぎまわり海を満喫する活動となった。



午後は室戸市内のスーパーマーケットへ向かった。キャンプ最後の夕食は自分たちでメニューを決めるフィールドクッキングに挑戦した。決められた材料費と作りたい、食べた



いものを頭の中で思い比べ、電卓を叩きながら食材を選んでいった。最後の晚餐は最高の晚餐となった。食後はキャンプ最後の夜を思う存分楽しむキャンプファイアを行った。これまでの活動一つ一つを思い出すように燃える炎を見つめる子供の姿が見られた。



### < 5日目 >

最終日はテント撤収と思い出の振り返りを行った。5日間を過ごしたテントサイトも、撤収後は何事もなかったように元の静かな森の姿を見せた。ボランティアリーダーが作製した思い出スライドショーで活動を振り返った後は、感想文を書いた。様々な活動にトライした5日間の思い出が次々と溢れかえってくるようで、「もう1枚」「もう1枚」と多くの子供が追加の感想用紙を求めている。

## 3. 事業の成果と課題

### ○ 参加者の感想

- ・自分のふだんの生活よりもはやおきをしたりしたので、自分が高められた。(子供)
- ・とてもおもしろくて、いろんなことにトライできたのでうれしい。(子供)
- ・できるようになったことがふえた。(子供)
- ・円滑に進めるための役割分担をする必要を感じた。活動は室戸の「夏」を楽しめるもので、来年以降もこの形がいいと思った(ボランティア)
- ・いろいろなタイプの子供たちがいることに改めて気づいた。対処方法など難しいことも多かったが、子供たちが楽しんでくれたので良かったと思う。(ボランティア)
- ・自分の成長につながるキャンプだったと思います。先輩リーダーの動きを身近に感じることができ、学ぶことがたくさんあって、職員の方も一人一人に合った指導をしてくださったので参加して良かったです。(ボランティア)

### ○ 事業の成果

・教育事業としての夏のボランティア自主企画事業は初めての開催であった。短い期間の中で企画をまとめ、運営することができたのは、冬の自主企画の経験を経たボランティアリーダーの力量によるものである。法人ボランティアが運営する子供を対象とした中期キャンプも他の国立施設でも例のないものであり、今後もこの取り組みが定着できるように努力したい。

### ○ 事業の課題

・ボランティアリーダーが主体的、自主的に行う企画であるため、施設職員の効果的な支援が有効に機能することが事業の成否に大きく関わる。所内体制の変化によってボランティアリーダーとの良い関係性が大きく損なわれない事が重要である。室戸ボランティアリーダーの持つ高いポテンシャルが存分に発揮できるよう、職員側の支援体制がさらに充実されることを強く望む。活動内容は他施設にも誇れるものであるため、室戸の好事例として一層の情報発信に努めたい。